

## 平成30年度 農林水産祭参加 全国肉用牛肉枝肉共励会

農林水産大臣賞に 山口県・(株)福嶋牧場殿

枝肉単価 16,185円で (株)丸富商店が落札

平成30度全国肉用牛枝肉共励会が、10月23日から10月26日までの4日間にわたり、東京食肉市場に出荷実績を持つ27都道府県より選抜された第一部 乳用去勢牛及び交雑去勢牛70頭、第二部 和牛去勢牛270頭、第三部 和牛牝牛160頭の合計500頭で開催された。名誉賞に輝いた第二部 和牛去勢牛の85号は、山口県から出品された(株)福嶋牧場殿の出品牛で、父が「幸紀雄」、母の父が「安福久」で、月齢31ヶ月、生体重796kg、枝肉重量572kg、歩留71.9%、格付A5(BMS No.12)、ロース芯の面積が132c㎡、バラの厚み10.5cm、皮下脂肪の厚さ1.5cmで、全体に肉付き、均称の素晴らしい体型で、ロース芯が充実し、肉色・光沢に優れた無駄のない正肉歩留まりの良い、名誉賞に相応しい枝肉でありました。枝肉単価は16,185円で、(株)丸富商店により落札されました。名誉賞に輝いた(株)福嶋牧場殿は、農林水産大臣賞、東京都都知事賞を始め、数々の名誉ある褒賞を受賞されました。また、各部の最優秀賞は、第一部 茨城県・(株)大里畜産殿の26号牛が、枝肉単価2,202円で小川畜産興業(株)、第二部 鹿児島県・(有)福永牧場殿の101号牛が枝肉単価5,001円で(株)中村畜産、第三部 鳥取県・田村正道殿の527号牛が13,023円で(株)吉澤畜産により購買されました。部門別の成績は下記の通りです。

部門	頭数	生体重量(kg)			枝肉重量(kg)			枝肉歩留(%)			単価(円)		
		平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低
第1部乳用・交雑去勢	70	938	1120	820	612	742	540	65.3	68.6	59.4	1,614	2,202	600
第2部和牛去勢	270	839	1043	664	573	707	451	68.3	73.6	62.9	2,797	16,185	1,681
第3部和牛牝	158	701	922	574	472	641	370	67.4	72.6	61.2	3,041	13,023	1,980

本共励会の出品規則第6条「生体到着時体重の制限」により、第二部 和牛去勢の部29頭、第三部 和牛牝の部で4頭の合計33頭が審査対象外となり、審査の対象となったのは465頭でありました。また、第三部 和牛牝の部の2頭は、繋留死・車中死の為、上場されていません。

## 大動物事業部

### <10月の相場動向>

10月の牛枝肉相場は、和牛去勢はA5が前月比53円高の2,889円(前年同月比76円高)、同A4が25円高の2,544円(同203円高)、同A3が28円高の2,301円(同275円高)、同A2が111円高2,148円(同403円高)となり、交雑種去勢はB4が同4円安の1,754円(同116円高)、B3が同10円高の1,610円(同214円高)、B2が同18円高の1,475円(同318円高)であった。全体的に、堅調な相場展開となり、下旬に向けて上場頭数が少なかったこともあり、上げ基調な強含みの相場であった。

**和牛去勢(月平均)**

A5 2,889円(前年同月比102.7%)(前月比101.9%)

A4 2,544円( 108.7%)( 101.0%)

A3 2,301円( 113.6%)( 101.2%)

A2 2,148円( 123.1%)( 105.4%)

**交雑去勢(月平均)**

B4 1,754円(前年同月比107.1%)(前月比99.8%)

B3 1,610円( 115.3%)( 100.6%)

B2 1,475円( 127.5%)( 101.2%)

**乳牛去勢(月平均)**

B3 該当なし

B2 977円(前年同月比96.3%)(前月比96.6%)

### <11月の牛肉輸入量予測>

輸入牛肉通関量	9月	前年同月	前年同月比	
フローズン	豪州	17,215	22,045	78.1%
	米国	11,123	10,405	106.9%
	その他	3,142	3,174	99.0%
	合計	31,480	35,624	88.4%
チルド	豪州	9,613	10,548	91.1%
	米国	10,078	13,655	73.8%
	その他	1,099	1,022	107.5%
	合計	20,790	25,225	82.4%

出典：食肉速報

農畜産業振興機構の需給予測による11月の牛肉通関量は前年同月比16.7%増の4万8,500tと予測している。チルドは3.4%増の2万2,700tで主に豪州産の輸入量の増加が見込まれる一方で、フローズンでは32.0%増の2万5,800tと豪州産、米国産ともに増加が見込まれ、前月同月を大幅に上回ると予測している。

### <11月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による11月の出荷予測頭数は1.3%増の10万5,600頭と前年実績を上回ると予測している。品種別にみると和牛は2.1%増の4万8,500頭、交雑牛は5.1%増の2万4,600頭、ともに前年実績を上回る予測で、乳用種は3.2%減の3万1,000頭と減少予測としている。東京食肉市場の11月のと畜頭数は8,800頭を予定しています。

### <11月の牛枝肉相場見通し>

気温の低下にともない売り場では棚替えが進んでいるものの、末端需要は鈍い状況にある。ただ、繁忙期に入るため月中旬から後半に向けて徐々に相場の高まりに期待する。和牛は3・4等級中心の荷動きで、5等級は強もちあいか。交雑牛は引き続き量販店需要の引き合い強くスソ物中心のしっかりとした相場が予測される。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,800～2,900	B4	1,700～1,750
A4	2,500～2,600	B3	1,600～1,700
A3	2,350～2,450	B2	1,550～1,600
A2	2,050～2,150		
乳牛去勢			
B3	1,150～1,250		
B2	1,000～1,100		

## 小動物事業部

農畜産業振興機構8月の豚肉需給動向によると、推定出荷り量は、国産品6万9,223t(同100.5%)、輸入品8万551t(同102.4%)、合計で14万9,734t(同101.5%)と前年同月を上回った。これにより、推定期末在庫は国産品1万8,182t(同116.2%)、輸入品15万7,848t(同97.8%)、合計17万6,030t(同99.4%)となった。

9月の全国と畜頭数は前年同月比3.8%減の126万2,120頭と前年より減少した。同月の豚肉通関実績は、総量で6万9,025t(94.5%)と前年を下回り、前月からも減少となった。チルドは3万441t(同96.9%)と減少。内訳は、米国が1万5,575t(同96.2%)、カナダは1万3,881t(同96.4%)、メキシコが981t(同117.3%)とメキシコは大幅に増。同じく、フローズンも3万8,584t(同92.7%)と減少し、内訳は、デンマークが8,213t(同84.5%)、スペインが8,506t(同102.6%)、メキシコが5,541t(103.2%)、米国が3,707t(同93.6%)、カナダが2,888t(同112.9%)となった。

#### <10月の豚取引の推移>

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	57,300	424	391	770
2日	64,700	456	410	925
3日	64,200	465	416	680
4日	66,500	452	434	722
5日	63,600	461	432	736
9日	74,600	467	437	865
10日	69,900	457	421	975

全国と畜頭数65,829頭/日。当市場平均810頭/日。

全国的に出荷頭数は堅調に推移しており、枝肉相場は400円台の展開となっている。売り場ではスポット的に国産物の特売が組まれるケースも増えてきている。鍋商材の売り場拡大により、スライス系の商材は堅調な荷動きをみせているが、ロースの引き合いは弱い状況となっている。また、スソ物はウデ、モモともに荷動きが鈍く、在庫も多いだけに凍結もしにくい状況にある。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
11日	70,100	450	437	740
12日	70,000	449	418	989
15日	64,800	440	413	921
16日	68,300	461	433	650
17日	66,700	468	424	702
18日	67,400	471	430	801
19日	67,200	474	446	963

全国と畜頭数67,786頭/日。当市場平均824頭/日。

徐々に気温は低下しており、引き続き量販店などの売り場ではバラなどの鍋商材が本格的に拡大傾向にある。一方でカタロースやヒレについてはそれなりに動いているが、荷動きは徐々に鈍り始めている。また、ロースの引き合いは弱く、投げられるケースもある様子。今月は歳暮ギフトへ向けた手当てなども本格化する時期だが、例年と比べ静かな状況となった。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
22日	67,500	450	428	656
23日	68,700	476	447	976
24日	64,700	473	434	798
25日	68,600	476	460	752
26日	67,800	469	440	1,041
29日	67,500	474	447	808
30日	68,500	485	448	890
31日	66,700	465	436	707

全国と畜頭数67,500頭/日。当市場平均829頭/日。

全国的な出荷頭数はそれほど増えていないが、関東周辺や東北などの出荷頭数は前年よりも増加している印象もあり、全体的に消費が鈍い中でやや荷余り感もある。この結果、10月の東京市場上物価格加重平均は461円となり、昨年は高値であったが今年はほぼ例年並みの展開となった。

#### <11月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による11月の全国と畜頭数予測では、前年比2%増の150万3,000頭と予想している。過去5年平均比では5%増となる。一日当たりの頭数は約7万1,571頭(21日稼働)と前年実績を上回ると予測している。当市場の11月の集荷予定頭数は1万7,500頭となっており、一日当たりでは約833頭の見込みである。

また、農畜産業振興機構によると11月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万8,200t(同91.8%)、内訳はチルドが3万4,700t(同85.6%)、フローズンは4万3,500t(同97.4%)の予測である。

末端需要は9月からの値下がりによって、棚替えを機に大手量販店でも豚肉の販促や売り場が輸入から国産へシフトしている事、チルドの輸入が減少見込みであることなどから、当市場の上物平均価格は480円前後、中物平均450円前後と予測する。

【TPP11が12月30日発効へ】

TPP協定参加国の内6カ国の手続きが完了し、12月30日に協定が発効されることが決まった。これにより巨大自由貿易圏が誕生する一方で、関税の引き下げにより、国産農畜産物への影響が懸念される。

#### 豚 日別相場表(10月)

